2021/10/18

道東太平洋赤潮プランクトン情報（臨時）

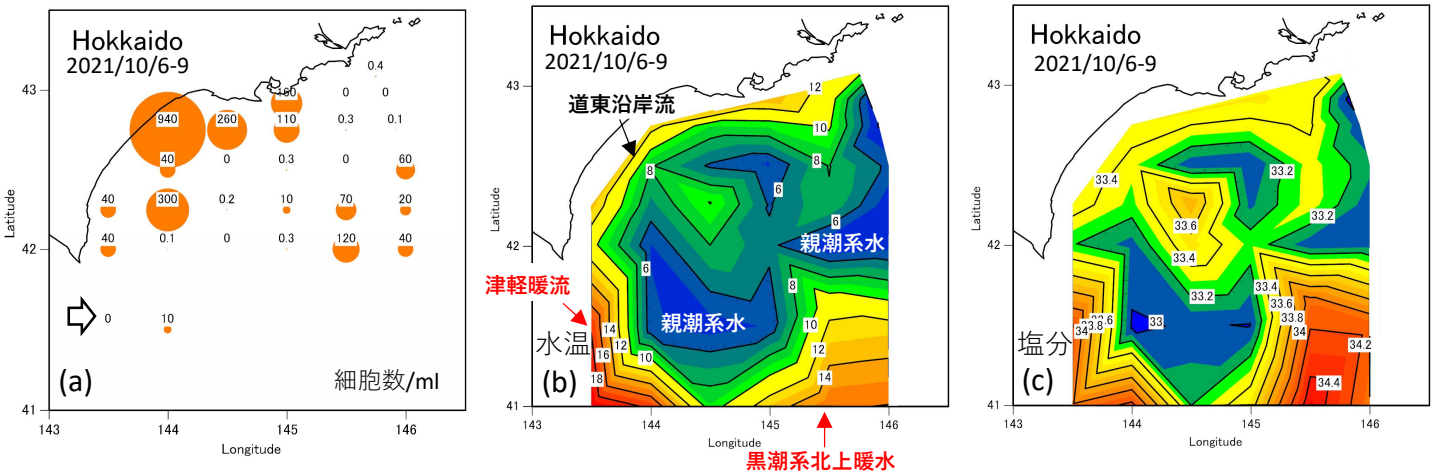
中央水産試験場　海洋環境グループ

カレニア属は道東太平洋の広範囲に出現

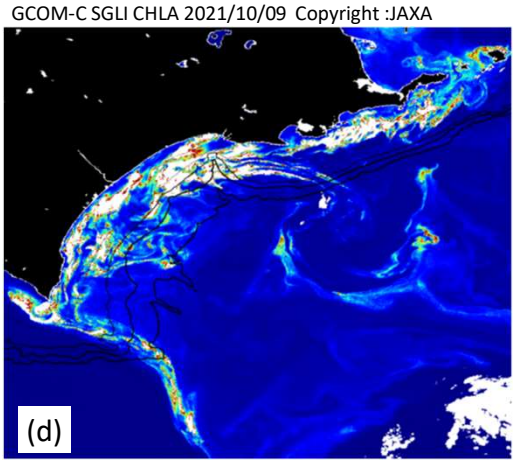
道東太平洋におけるカレニア属プランクトンの分布状況を把握するため、令和3年10月6～9日に実施した道東太平洋定期観測の際にカレニア検鏡用の採水をしましたので、その結果をお知らせします。カレニア属は道東太平洋の沿岸域に多く出現しており、根室南方の沖合域にも分布がみられました（図1a）。出現したカレニア属の優占種はカレニア・セリフォルミスです。また、カレニア属細胞数の水平分布と人工衛星で捉えたクロロフィルa量のそれはおおよそ一致していることがわかりました（図1a,d）。現在、道東太平洋の沿岸域では道東沿岸流*1が弱いながらも西進しており（図1b,c,e）、えりも岬沖から南下に転じています。

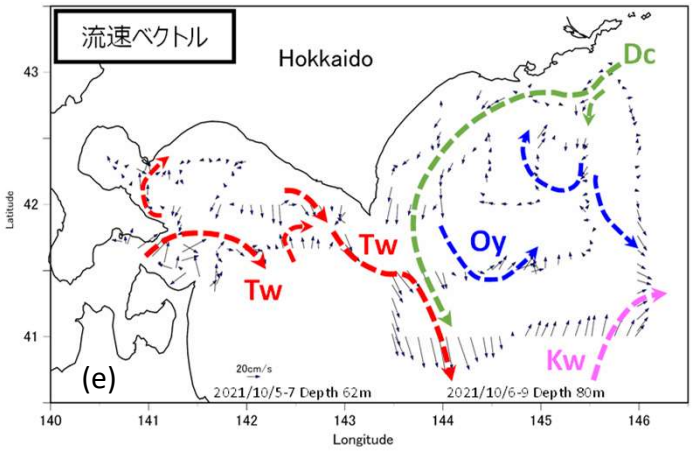
一方、根室南方沖のカレニア属は親潮系水中に出現しており、えりも岬を超え道東海域まで張り出している津軽暖流水中には、サンプル数は少ないですが、カレニア属は出現しませんでした（図1aの矢印）。以上のことから、カレニア属の分布は太平洋海域の水塊配置に大きく依存しており、今後各水塊の挙動を注視する必要があると考えられます。

*1　夏季から秋季にかけて道東太平洋に出現する水塊で、親潮系水よりも高温、高塩分なのが特徴です。
*2　通常、カレニア属の検鏡には生サンプルを用いますが、今回は特殊な固定液を作成し、数日経過しても同定できるようにしました。



GCOM-C SGLI CHLA 2021/10/09 Copyright :JAXA





Tw:津軽暖流水　Oy:親潮系水　Dc:道東沿岸流　Kw:黒潮系北上暖水

図１　2021年10月上旬における（a）表面水中のカレニア属出現細胞数、（b）50m深水温（c）50m深塩分、（d）衛星クロロフィルa量の水平分布、および（e）流速ベクトルの水平分布と海流の模式図。